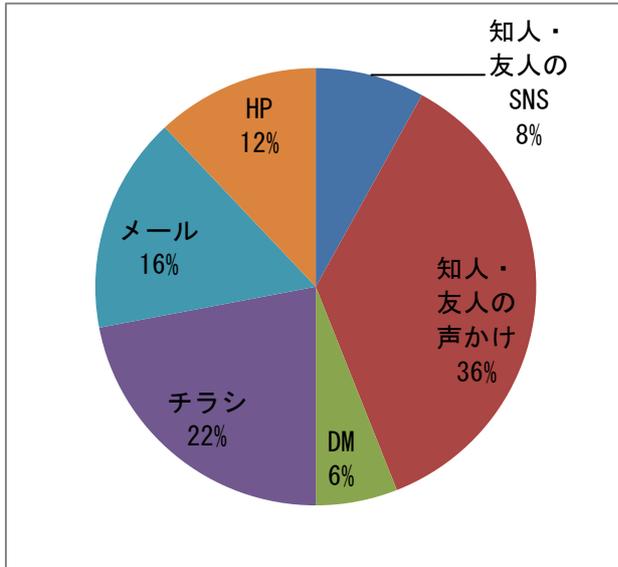


アンケート集計結果

I.参加の動機をお答え下さい。

・このイベントを何で知りましたか。



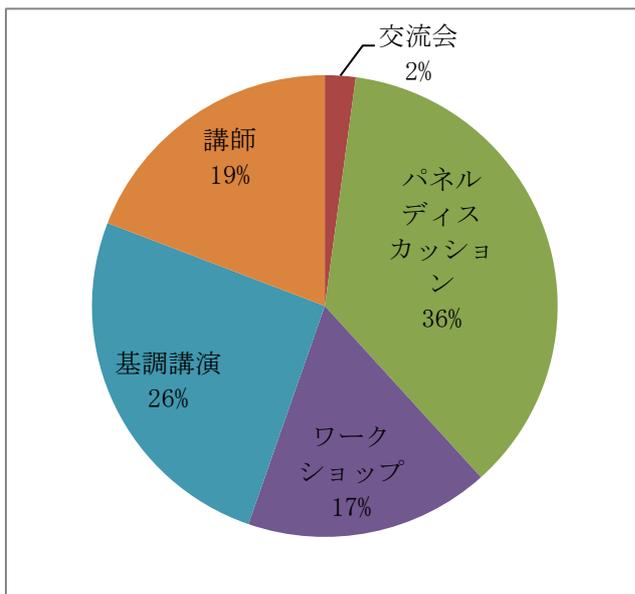
▼HP サイト名

- ・東北学院大学災害 B
- ・TEAM 防災ジャパン
- ・前原トムさんの
- ・JCE の HP

▼その他

- ・日本生活共同組合連合会よりメール
- ・男女参画と災害復興ネットワーク
- ・社内の掲示板
- ・団体の関連性から
- ・上司の会話

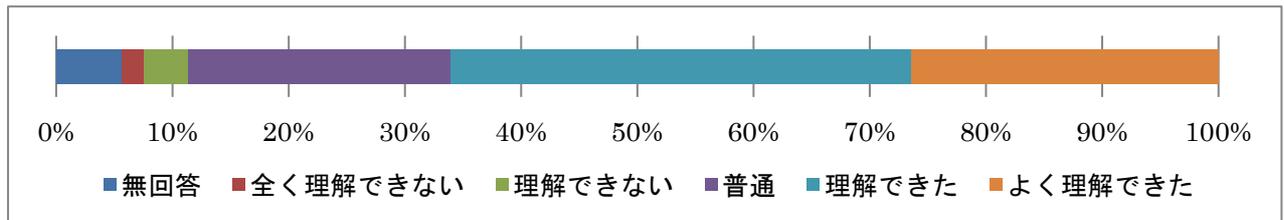
・参加の決め手となったプログラムはなんですか。複数回答可



▼その他

- ・すべての組み合わせ
- ・主催者
- ・内閣府主催であり、興味の分野であったため
- ・テーマを見て
- ・テーマに関心があり、電話で問い合わせを確認した。
- ・義理人情
- ・知人（前原さん）が参加すると知ったため

Ⅱ. 「基調講演」について内容は理解できましたか。

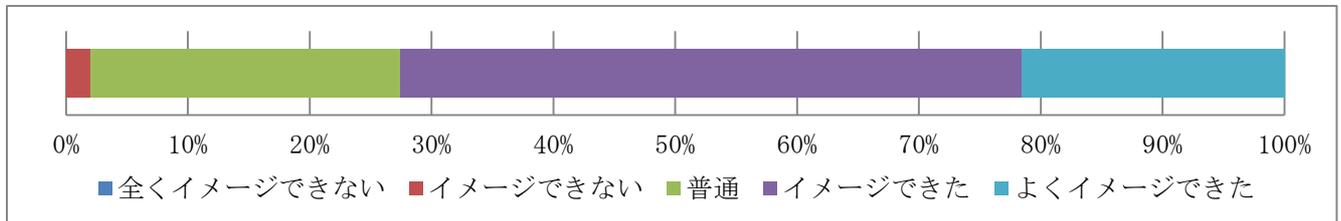


理由

- ・時間の都合で後半省略された印象をうけた。
- ・たまに専門的な用語が入り、わかりにくいこともあった。
- ・パワーポイントも不十分。話術もなし、声も小さい、伝わらない。基本知識がある人や自分のことを従前から知っている人だけを対象とした自分の主観のみを話している印象。「社協」と言葉を連呼されても分らない。行政批判だけをしても、市民の意識は変わらない。もっとボランティアの重要性を認識できる話を聞きたかった。
- ・行政、社協、企業、NPO 様々な人に聞いてほしい内容がすごく解りやすく話されていた。ありがとうございました。
- ・形式的でつまらなかった。
- ・基本的なことを整理して話して頂いた。Coordination Corporation Collaboration Communication の主要素は、防災に限らず組織活動のポイントと思う。
- ・防災やボランティアのことを知らない自分でも、わかりやすく大きな災害をきっかけに進化してきていること、問題点があることを説明いただきました。
- ・ボランティアの現状についての問題意識が高まった。
- ・わからない単語があったので（後ほど解決しました）ボランティアにずっと携わってらっしゃる方のお話だったので、ボランティアの変遷とこれからの課題がわかってよかった。
- ・室崎先生のお話をきくには短すぎる。ただそのあとの WS パネルディスカッションのきっかけづくりと意味での理解となった。
- ・室崎さんの想いは伝わる。
- ・質問を受ける時間が欲しかった。
- ・室崎先生のお話、特に行政の責任を明確に発言されていたことは、重要だと思いました。ボランティアの自己責任が横行していますが、本来行政がすべきところをボランティアが代行しているということ、もっと広めてほしいと思います。
- ・ボランティアの現状、連携の難しさを改めて知りました。
- ・シャキョウとは何か？ ジューキボランティアとは何か？ よりていねいな説明が必要ではないかと思われる。小さい声がマイクに伝わらず聞き取り難い状況でした。

- ・資料があり、わかりやすかった。
- ・とてもインパクトがあり、感謝した。この話はしっかりじっくり聞きたい。
- ・とにかく生き字引のような大切な存在。ありがとうございました。
- ・一般の方にもわかりやすい講演でした。
- ・阪神大震災からボランティアがスタートしたことがよく分かりました・
- ・話の内容は理解できたのですが、具体性が今一つだったように感じました。
- ・マイクの調整がいまいち（後ろに声がとどいていたか？）
- ・熱量
- ・時間が短く、全部聞けなかった。
- ・経験した方々のお話を聞いてとても深く考えることができました。
- ・熱い思いが伝わった
- ・防災ボランティアとして、ボラセンの立上げ訓練に初めて臨み、机上と実践の違いを痛感。その面をすべて把握され論点とあげられていた。
- ・説明がわかりやすかった

Ⅲ. 「ワークショップ（テーマ：災害時に他機関・団体と連携するために必要なものは何か）」について、具体的に連携に必要なものをイメージすることはできましたか。



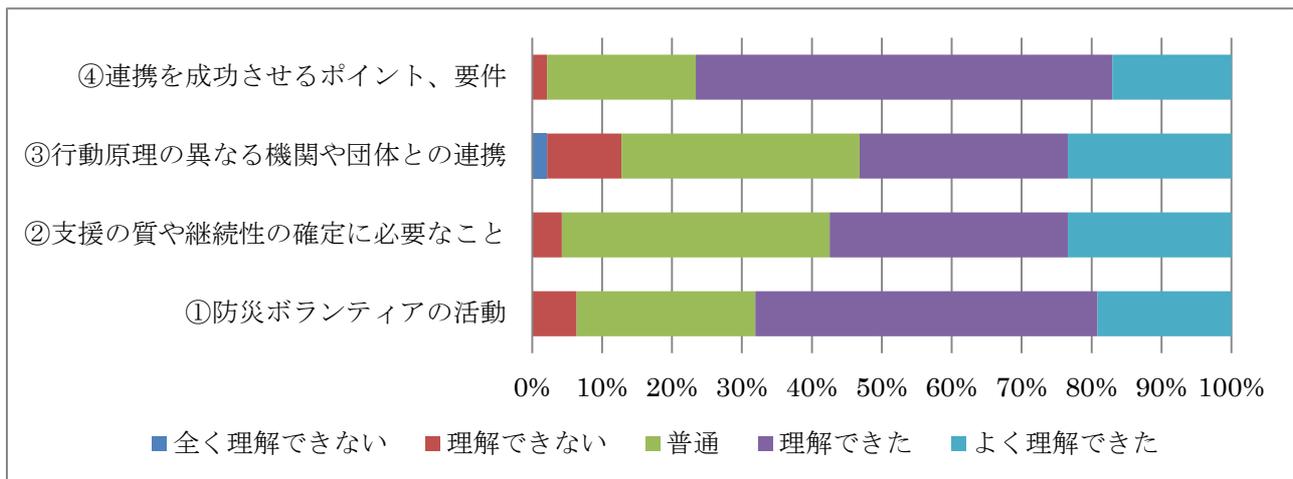
「ワークショップ」への感想・意見

- ・大変良い機会になりました。
- ・参加者との間に知識の隔たりがあり、一方的な話し合いになるケースもある。
- ・もう少し、時間があれば、なお良かったと思います。だんだん楽しくなってきたときが、終る時間でした。
- ・参加者のレベルが多様で、新しい発想も多くテーブルごとの差が興味ぶかかった。鍵屋先生のとりのまとめが解りやすかった。4人中3人が元からの知り合いでした。
- ・楽しかった。もっと時間が欲しかった。もっと泥臭い議論が欲しかった。
- ・①4人で1つのテーブルを囲むのは適当であった。②終了後他のテーブルを回って意見を見て評価するのは面白かった。これをまとめて、何が重要かベスト5を最後に発表するとよかった。

- ・ 沢山のアイデアが出た後のまとめの情報を共有いただけると嬉しいと感じました。
- ・ 様々な意見を聴く中で、ボランティアの依頼度を高める必要性、一定の基準を設ける必要性があるだろうと感じた。
- ・ 時間がもう少し必要だと感じた。
- ・ いろんな意見が出たので、なかなか具体的なアイデアにまで到達しませんでした。他のグループの方の意見がいろいろでイメージが少しできました。
- ・ ネットワークが平時から構築されていることで有事に集結できるということで、本来はコミュニケーションから始まる志同じくする個であると思った。
- ・ ワークショップ自体は有意義であったが、ここでは結論がでないのどうかと思う。
- ・ この方法はよいと思いました。ただ、時間が足りませんでした。
- ・ とても勉強になりました。もっと時間がほしかったです。ぜひここでの提案を内閣府から発信してください。
- ・ 実際にボランティアに参加した方の話から、話をふくらませることができて良かった。
- ・ 災害地における異なる立場の連携が不可欠であることを再認識できました。
- ・ グループをチェンジしながら新たな気づきを得られ、6 グループでは、4 つの大切な案がまとまりました。
- ・ いろんな意見が聞けて良い。
- ・ 様々なセンターの方と直接話げできた貴重な機会となった。
- ・ 一般の方や行政の方、支援関係や企業の方、いろんな立場の方がいらっしたため、連携が求められる環境が異なり（町内会から支援現場、etc）必要な要素を具体的な事例として一つの結論かにまとめることが難しかった。ただ一環して、コミュニケーションや普段のつながりという面では意見がほとんど一致していた。
- ・ 難しい問題が発生するのですね。
- ・ コミュニケーションの取り方や、学びの深め方を学ぶことができました。
- ・ 初めての体験でありました。なかなか有意義なワークショップでした。
- ・ ほとんど異業種交流会でした。
- ・ 実際に経験した方の話を色々聞いたのは良かった。
- ・ 具体的な連携の方法が具体的に描けなかった。
- ・ ご近所の大切さがわかりこれからも心がけたいと思った。協定を作ることで事前に具体的に事柄が進められるのなら作るべき。そしてもっと仲良く。
- ・ 開始時はどのような進行になるか不安でしたが、他のメンバーから活発な意見があり最終的には何となくイメージをまとめることができました。他のグループの意見をみると概ね同じ意見がみられ、同じような考えを持った人が多くいることを知ることができた。

- ・ワールドカフェ方式のワークショップは、はじめての経験でしたが多様な人との交流で考えが具体化した。
- ・ファシリテーターに感心した。テーマとは別に人と人との連携には何が必要かイメージできたように思います。人を否定しない、いい言葉です。
- ・初めての経験で興味深かった
- ・いろんな方の意見・考え方を知ることができて良かった。

IV. 「パネルディスカッション」の中で下記の項目について理解はすすみましたか。



①-④のなかで特に理解できなかったものについてお答えください。

どのような点が理解できなかったか具体的にご記入下さい。

- ・理解する上で土台となる知識が必要であり、それが欠けている。
- ・①：具体的な話は少なかったと思います。メンバーの方々が実施していることは分りましたが。
- ・連携の質が支援の質につながる点。
- ・企業の人からの話も聞けたらよかった。
- ・事前のコミュニティ作りが大切、事前に考えておくことが大切という声を聞くが、実際に行動に移しているのか自問自答。
- ・どれも、さわりだけど理解できた感じではありました。
- ・②：単発で動き出し、事件を起こす NPO もいて質の向上も含め課題はまだある。
- ・結局個人なのか、組織って何なのかと思う。
- ・例えば熊本地震の際の連携の実体をもっと生かして欲しかった。
- ・③：社会福祉協議会とボランティア組織団体との関係がよく解らなかった。シャキョーとは何か？特別な組織なのか？

- ・①：ボランティアどうしの役割分担が難しいと思うし、被災者の必要なこと、望むことを把握し、提供するのに、各ボランティアどうしがどう役割分担していくのか、現実には難しい気がしました。
- ・③：具体的な教訓が乏しかった。
- ・①：一般の方には防災ボランティアという言葉で一般ボランティアなのか支援団体なのか区別しづらかったのでは？
- ・①：「防災」の話はなかった
- ・一日にしてならず。信頼関係は防災なりだ。
- ・③：連携が大切だという話はたくさん聞きましたが、どうやったら連携を深められるかはあまり言及されなかったように感じました。
- ・防災ボランティアという言葉は初めて聞きました。

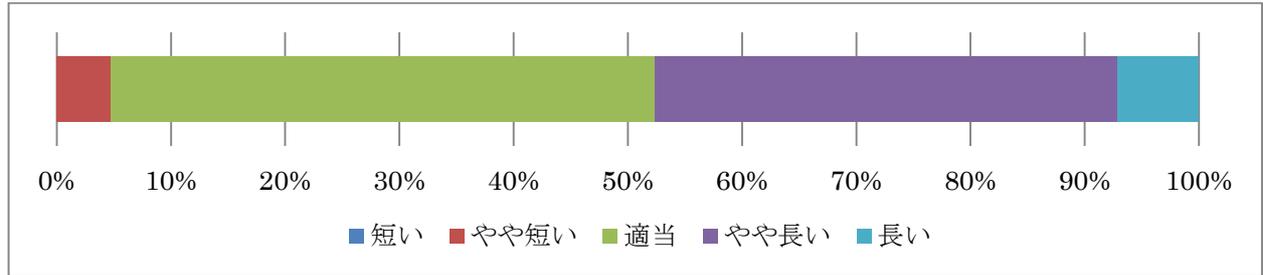
①-④のなかで特に理解できた項目についてお答え下さい。

どのような点が理解できたか具体的にご記入下さい。

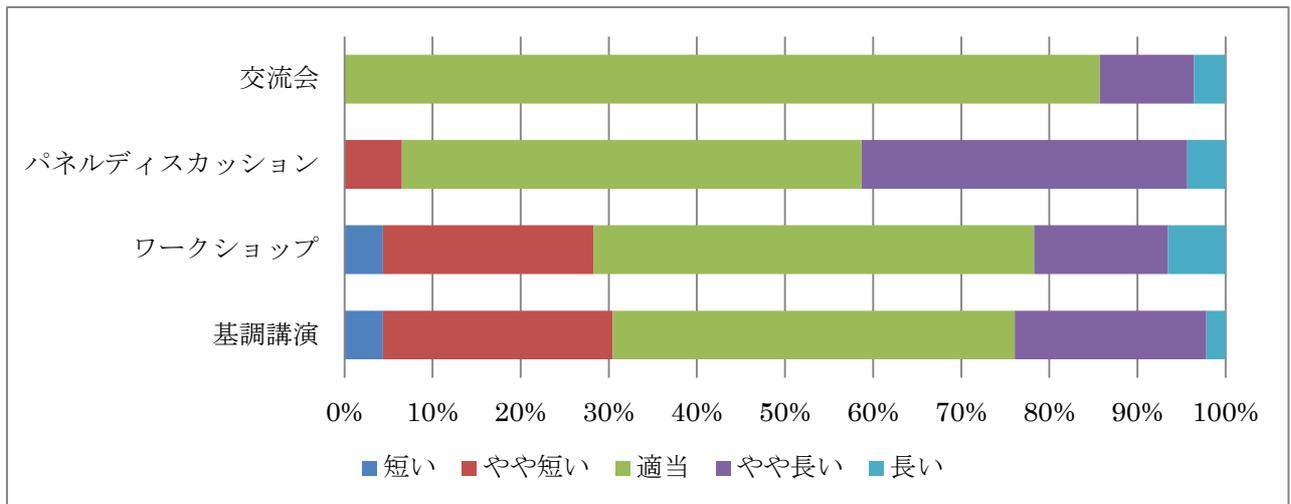
- ・④：ボランティアのコーディネートをする団体で重要であることがわかりました。意欲があっても参画する術も分らず、行動できない現状を知りました。
- ・連携を成功させるポイントは詳しく話しが聞けました。
- ・それぞれのパートナーの強みを組み合わせると③はいる。 が大切。民間の柔軟性と行政の確実性のマッチングも大切。
- ・日頃の人と人とのつながりや情報交換が何かあったときに生きてくるんだなと感じました。
- ・ボランティアは①誰でも参加できること、こばまないこと。
- ・④：短いことばでは難しいが、ボランティアも地域も行政も人なのだと感じた。
- ・個人の力を利用して、大きな組織を連携する。企業と似ていると感じた。パネラーの皆様の話はおもしろかった。
- ・支援の足算、引算ありがとうございました。
- ・前原氏の災害支援プロとしての覚悟をもつに至った経緯と、プロとしての専門性、コーディネーターとしての力量・能力の重要性が理解できました。
- ・組織連携→協定
- ・④：地域住民、NPO、行政との日頃からの連携が大切と思う。情報共有の大切さを感じます。
- ・①：ボランティアの大切さの理解度は進んだと思う（鍵屋さんの進め方のおかげ）。
- ・NPO の具体的な活動
- ・普段からの連携、練習の大切さ（予測して予行を行う）
- ・平時のつながりが大事
- ・日ごろからか顔が見える関係を作る

V. イベントの進行についてお答え下さい。

① イベント全体の時間は適切でしたか？



② それぞれのプログラムの時間は適切でしたか？



イベント全体についてご意見、ご感想を自由にご記入下さい。

- ・パネストのお話をもっと聞きたかった。活動紹介でおわっていたような気もした。ディスカッションで JVOAD の説明はいらぬい。ワークショップはとてもよかったです。有難うございました。
- ・ありがとうございました。
- ・ボランティアについて多少理解が深まった。
- ・大変おつかれさまでした。
- ・室崎先生の話、鍵屋先生の話、やりとりまわしはすごく勉強になりました。ワークショップ、交流会については、参加者の属性がわかるとよりよかったですかもしれません。JVOAD の話が沢山でて、身がひきしまりました。事務局の皆さんもおつかれさまでした。
- ・多様な人々が参加して有登であった。
- ・防災ボランティアということに関心を持つきっかけを頂き大変勉強になり感謝しております。ありがとうございました。楽しみながら防災を学ぶ活動をお手伝いしていきたいと改めて感じました。

- ・貴重な機会をありがとうございました。TEAM 防災ジャパン、チェックします。名札に名刺だと、小さくて見えづらいので紙にみたいなのでもいいと思いました。
- ・（パネルディスカッション）パネラーの話でいつのまにか、被災者に対して上からの目線で話している印象を受けた。
- ・とても充実していました。個人でも排除せず学ばせていただいて感謝しています。ありがとうございました。
- ・今日、池袋で防災 EXPO が開催されています。実際に使われる防災グッズや保存食の使用や試食等があるみたいです。身近に体験してみることも大事だと思います。今回の啓発活動も大事ですが。組み合わせたらおもしろかった。ボランティアの影もちょっと見えた集いかな（JVORD の営業）。
- ・スクリーンを中列にも設置したほうがよい（モニター）。タイムスケジュールは守るべき。
- ・同じ内閣府主催でかつ同じ防災担当主催なのにサンシャインのぎゅっと防災博と同日同時刻開催はいただけない。ちゃんと調整して下さい。
- ・災害 VC は、社協とは限らないと思います。今市町村行政は、市民活動センター（ボランティアセンターを含む）は、社協にではなく、他の NPO に指定管理で出され増えてきています。注意してください。
- ・大変参考になりました。
- ・『やらないこと』が被災者の支援、自立につながることもある。「敢えて悪者になる。ニュートラルな外部の者だからできることがある。」前原氏の名言は身にしみました。
- ・それぞれ、聞きたいこともたくさんあり、あっという間でした。充実した時間でした。
- ・JVOAD がはからずとも説明を求められ、発言の機会を与えていただき感謝いたします。最初からちゃんと登壇したかったです。
- ・興味深い話が聞けたので進行もテンポ良く良いつどいになったように感じました。パネルディスカッションでの参加者からの意見等の場はみなさんお話しされたい事が多数あるようでびっくりしました。
- ・「防災」の話を期待したのにまったくなくて残念
- ・大変良い防災とボランティアのつどいと思います。
- ・参加者も多くバラエティーで有意義でした。
- ・防災と地域福祉のつながりの重要性をもう少しあっても良かったと思う。
- ・基調講演、パネルディスカッションの登壇者一人一人のお話が気負いもなく自然でよかった。
- ・ボランティアの活動のみならず、様々な教護団体が有機的に被災者の方々の支援が可能になるためには、受援をどうするのがキーポイントになると思います。ついては受援について黒子の役割について考える機会を作ってもよいのではと思います。

- ・防災ボランティアについて知識を深めることができました。つながりの薄い現代での強すぎないコミュニケーションの構築が重要であることに気づかされた。ハードルは高い。外部支援の利用が一つの手段。
- ・少し長いというきがしたが、熱い思いを持った人が参加し発言されていたので中身がつまっており全体として冗長ではなかった。
- ・こんなに人の為に動いてくれる人たちがたくさんいることが知れてうれしかった。
- ・GAKU-MC さんのような有名な方が来ていると参加してみたくになります。
- ・行政についてであるが「自治体は 20%も職員がへっているからできることが限られる」という論調は気掛り。一般企業でも当たり前なこと、自治体職員の「質の低下」が本質ではないか・首長や自治体組織が職員の地域奉仕、貢献のモチベーションという基本的な職業に対するプライドを高めることが必要。国も含め「行政の役割」を民間に「丸投げ」ではいけない「すき間」をうめるのがボランティアや自治会ではないかと思う。課題解決の仕組み、方法を積極的に行うことは自治体の重要な役割です。